

近世人物誌

やまと新聞附録

五代目 阪東彦三郎
永喜の三津五郎士王路考和泉町の幸四郎
七を引せたるは昔見負の老女を輪廻
人の前無地りの笑ひ嫁が姉とあり佐
倉吉切の土の新作の通也(稲妻)
表紙の又とも見せたるの重三郎負
も後近世大晦日用心の教化呼ぶ
哉又五代目坂東彦三郎童名と鉄藏
跡中橋大鐘町天藤毒の浪男あり故有
て四目彦三郎重三郎の父子と名を借之助
と改九歳中村屋出を以て初舞臺と
す時天保十一年片地塚町とす事
竹三郎と改め安政四年廿五歳父の分を
つぎ五代目彦三郎とすなり米三演ず
る所にて不許たりか今好閑家の話
ん州ももの甚多し三都なるを東世ハ
滑りの知丹を以て東より記す明元年
守屋頼光の後尾州を名屋と経英陛下
へも惜し天威を畏れ翌十一年百二年
呼彦三郎浪平の旅寝故人とす市
寺西の浄土寺入理華と法名常樂院開卷
緊連居士痛と然るあせし偽と云々の
事と依り今高島島在りて去るもの
世に世説ありて高島村にて遊説あり其
頂の徳とすなりと年月法名等確らん
と近世人物誌(加へり見清と書画)は
前の説依りての戯りあり



發行所 東京 京橋区 尾張町三丁目一番地 やまと新聞社
印刷所 奥隅依三 編輯人 中泉政太郎

